

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○				○		○		○		○			

## 企業の概要

社名	株式会社 三菱東京UFJ銀行	都道府県	東京都
業種	銀行業	従業員数	34,865名
事業概要	金融業及びその他付帯業務		

## テレワーク実施概要

雇用上の規定	就業規則に規定
テレワーク担当部署	人事部
テレワーク対象者	本部に従事する従業員
実施者数	100名強
実施日数	概ね週1～2回程度

## テレワークの導入・拡大の経緯

平成27年4月、「従業員一人ひとりが主体性を持って『変革に挑戦』する、活力溢れる組織へ」をスローガンに、全行運動として「働き方改革」をスタート。生産性向上、両立支援、勤務形態多様化を目的に「在宅勤務」導入を検討開始、平成27年夏の在宅勤務試行を経て、平成28年4月に「在宅勤務制度」を導入。

## テレワークの概要・特徴

【特徴】銀行は、お客さま情報を取り扱い、平日の9時から15時を中心とした対顧客営業であるがゆえ、下記4点について検討し対応策を策定。

対象業務：本部（主に企画業務または育児・介護の従事者）が対象  
 勤務管理：在籍確認機能、ログ実績還元、上司への成果物報告等で管理  
 情報管理：シンクライアント型ノートPC、自宅限定、研修受講且つ誓約書徴収  
 機器性能：通常勤務時と同様のPCを貸与、ほぼ変わらぬ作業環境を提供

【目的】自宅で業務に集中して取り組むことによる生産性の向上が主目的  
 プライベート時間が確保できることで、精神・時間的ゆとりが生まれる

【対象】企画業務型裁量労働制の対象業務に従事する行員  
 育児（小学校3年生以下）・介護ニーズのある本部分行員  
 その他、人事部長が認めた者（本人の疾病等を想定）

## テレワーク導入の効果（経営にもたらした効果、その他効果）

【利用実績】  
 男-女、生産性-両立支援等、様々なニーズ・生活スタイルの方が満遍なく利用

【効果反響】  
 ・「在宅勤務」導入したことで、従業員へ「働き方改革」の本気度が伝播  
 ・在宅利用者は、予め在宅勤務時の業務を意識するうえ、上司への業務報告が求められるため、業務の「計画性」「生産性」への意識を促進・増強  
 ・在宅勤務では、電話や打合せ等で遮断されないため、より業務に集中できる  
 ・通勤時間及びその労力がなくなるため、仕事のみならず家族との時間も充実